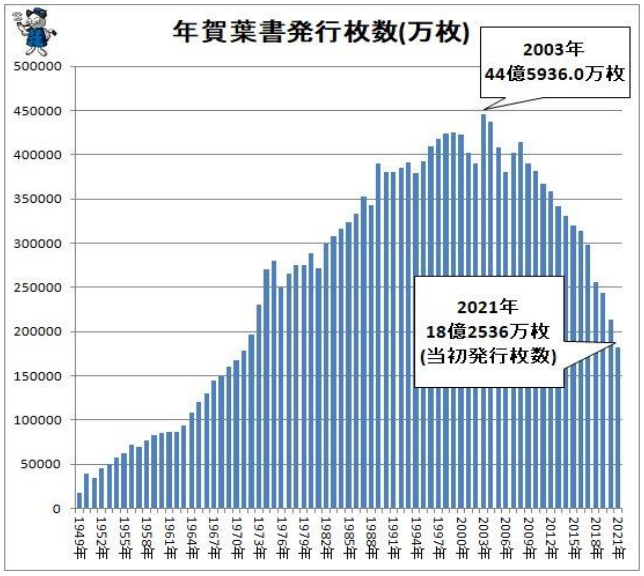
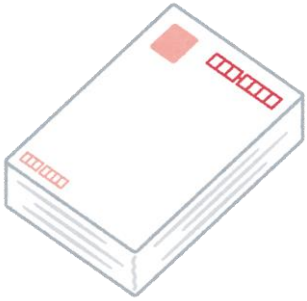
校長だより　向日葵　　１２月２日　廣渡一郎

◆◇◆年賀状◆◇◆



■年賀状書きの時期が近づいています。
ただ，「私は書かないです」
「メールかラインですませます」
という声もよく聞きます。
右のグラフは日本郵便が発行している
年賀葉書の発行部数の推移。
はじめての発行は１９４９年。
当時の発行部数は１億８０００万枚。
私が生まれた１９６４年には１０億枚，
１９７３年には２０億枚を超えています。
ピークは２００３年の４４億５９３６万枚。
そこからどんどん下がり続け，
２０２１年には１８億２５３６万枚。
グラフにはありませんが，２０２２年の
今年の調査では，１６億４０００万枚となっています。
インターネットの普及率が上昇を続け，デジタルネイティブ世代が次々と成人になるに連れ，年賀葉書の需要はこれからも減少，発行枚数も減らさざるを得ない事態が続く，と言われています。



■時代の成り行きとはいえ，私はやっぱり寂しさを覚えます。
なにしろ子どものころから年賀状書きは大掃除とならんで
大きなミッションの一つ。
「プリントゴッコ」が登場するまでは一枚一枚，
表も裏も全て手書き。今とは比べものにならないほど
時間がかかります。
それでも「当たり前」として皆，年賀状を書いていたものです。
元日の朝。ポストから年賀状の束を取り出し，文面を読む時間はとても楽しみでした。

■年賀状を書く(つくる)という人は今後も減り続けていくのでしょうか。
年賀状に限らず，思いや考えを書き言葉で伝える文化やメディア，例えば「恋文」や「新聞」などもさらに減っていくのかも知れません。
寂しい，でも仕方がないと思う反面，これからどんな新しい文化，メディアが出てくるのか，楽しみな思いもあります。